

7人の乙女たちの歌（虹の定理） Canción de las siete doncellas (Teoria de arco iris)

『カンシオーネス』（1921-24）収録

7人の乙女たちが歌っている
（天には 日没のお手本のようなアーチ。）
7つの声をもつ 一つの魂
7人の乙女たち。
（白い大気の中に 7羽の長い鳥たち。）
7人の乙女たちは死んでいく
なぜ 9人ではなかったのだろうか？
なぜ 20人ではなかったのだろうか？
河が乙女たちを連れさらっていく
誰も 彼女たちを見ることはできない

驚き（ソレアの詩） Sorpresa 『カンテ・ホンドの詩』（1921/ 1931 出版）収録

短剣が胸に突き刺さり 路上で死んでいる男
誰も彼を知らなかった

街灯がどんなにか震えていたか！
お母さん
街の灯がどんなに震えていたことか！

それは早朝だった
硬直した空気に見開かれた彼の眼を
誰もものぞきこむことはできなかった

短剣が胸に突き刺さり 路上で死んでいる男
誰も彼を知らなかった

ギター Guitarra 『カンテ・ホンドの詩』収録

ギターのすすり泣きが始まる。
夜明けの盃が割れる。
ギターのすすり泣きが始まる。
それを黙らせようとするのは無駄。
黙らせることなどできない。
ギターは泣く、単調に。
水が泣くように。
降りしきる雪の上で 風が泣くように。

それを黙らせることなどできない。
ギターは泣く 遙かなるものを求めて
白い椿を探す 暑い南の国の砂。
ギターは泣く
標的のない矢、朝のない日暮れ、
そして枝の上の 一羽目の死んだ鳥。

おお、ギターよ！
五本の剣で
傷を負わされた心臓よ。

枯れたオレンジの木の歌 *Canción del naranjo seco* 『カンシオーネス』(1921-24) 収録

きこりよ
切り落としてくれ、わたしの影を。
実の一つもない自分の姿をみる苦しみから
わたしを解き放ってくれ。

なぜわたしは 鏡のあいだに生まれたのだろうか？
昼は 私の周りをめぐり歩く。
そして夜は そのすべての星々のなかに
私の姿を映しとる。

わたしは自分の姿を見ることなく生きたい。
そしてわたしは夢みるだろう
蟻と あざみの花々が
わたしの葉と 鳥たちになることを。

きこりよ
切り落としてくれ、わたしの影を。
実の一つもない自分の姿をみる苦しみから
わたしを解き放ってくれ。

六本の弦 *Las seis cuerdas* 『カンテ・ホンドの詩』収録

ギターは
夢に涙を流させる。
絶望した魂の
むせび泣きが

その丸い口から
こぼれていく。
そしてタランチュラのように
大きなひとつの星を織りあげる
黒い木でできた
アルヒベに浮かぶ
ため息を捕まえるために。

*アルヒベ=アンダルシア地方に特徴的にみられる、貯水槽のこと。

シギリージャの歩み El paso de la sigiriya 『カンテ・ホンドの詩』収録

黒い蝶たちに交じって
褐色の肌の娘がゆく
霧の 白い蛇と一緒に。

光の大地、
大地の空。

決してやってこないリズムの
震えに鎖でつながれ
彼女は銀の心臓と
右手に短剣をもっている。

どこへゆくのだ シギリージャよ、
頭を欠いたリズムで？
どんな月が集めるのだろう
石灰と夾竹桃の おまえの痛みを？

光の大地、
大地の空。

月よ、月よのロマンセ Romance de la luna, luna 『ジプシー歌集』(1928) 収録

甘松のポリソンを腰につけ
月が鍛冶場にやってきた。
こどもが月をじっと見る じっと見る
こどもが月をしげしげと見ている。

ふるえる空気のなかで
月は両腕を動かし
衣を滑らせ、清らかに
硬い錫の胸をみせる。

逃げろ、月よ、月よ、月よ。
もしもヒターノたちがやってきたら
あなたの心臓で
白い首飾りと指輪をつくるに違いない。

こどもよ、私に踊らせておくれ。
ヒターノたちがやってきたときには、
きつと鉄床のうえで
目を閉じているそなたを見つけるだろう。

逃げろ、月よ、月よ、月よ。
もう僕には、彼らの馬のひづめの音が聞こえる。
こどもよ、かまわないでおくれ。
わたしの糊のついた白衣を踏んではいけないよ。

騎手が近づいてくる
平原の太鼓を踏み鳴らしながら。
鍛冶場のなかで
こどもは両眼を閉ざしている。

オリーブの畑を通過、青銅と夢の
ヒターノたちがやってくる。
頭をおこして
なかば目を閉ざしながら。

あの夜鳥の鳴き方よ、
ああ、木の上であんなに鳴いている！
月が こどもの手を引いて
空をわたっていく。

鍛冶場の中では、声を上げ
ヒターノたちが泣きわめく。
大気は見守る。
大気は寝ずに 見守っている。